

# 公民館報 たかぎ

【第 663 号】

題字：真浄寺書道会 原 愛夢

発行日 2025年7月16日

発行責任者 喬木村公民館長  
林 司

編集責任者 公民館広報部長  
池田 英明

印刷 龍共印刷株式会社



## たかぎの夏!

帰牛原フォトコンテスト住民投票第1位作品 「夕涼み」

撮影：木下穂南

質問項目

問1 いま、はまっている趣味

問2 座右の銘

問3 喬木村公民館の願いは、『「ここちよいつながり」をつくり、それを広げること』です。これが、「持続可能な地域づくり」にむけて大切なことと考へ、事業を実施しております。議員の皆様には、「持続可能な地域づくり」についての考へや今後の方向性をお聞かせください。



サトウ フミヒコ  
佐藤 文彦 (55)  
阿島南 無・3期

- ① アクアリウム ② 頼まれごととは試されごと
- ③ 基本は「人」であり「人のつながり」だと考へます。

もちろん安心・安全に暮らせること、安定した雇用や暮らしの基盤の維持があつてこそですが、この地域を愛し、住み続けてくれる人を育て、その人と人とがあつながつてはじめて持続可能な地域が実現すると思へます。

その上で「住民の主体性」「多様な主体との連携」「社会の安定」「経済の活性化」などの充実に取り組んでいく必要があると思へます。



シミズ カズフミ  
清水 和文 (71)  
富田 無・1期

- ① なし (若いとき音楽鑑賞) ② 努力 努力することを忘れるな
  - ③ 地域における生活形態が大きく変わつて来ており、核家族が進み家族が分散、身近なエリアで生活していないのが現状です。自分の生活を維持するのが大変な時代、超高齢社会では、やはり近所、地域が繋がりを持って助け合える地域づくり、共助ができる地域づくりが大切だと思へます。色々な団体等で取り組んでいますが、個人がその気持ちが持てるような取り組みをさらに進めることが大切だと思へます。その中心にいて担っていたのが公民館活動等ではないかと思へます。しかし、個人の生活が忙しく参加できない、されていないのが現状と思へます。嫌々で過去は参加していたと思へる公民館活動等を振り返れば、参加した後は繋がりができていたと思へます。
- 過去実施していたスポーツ大会等がなくなり、寂しいと思へている人もいますので、さらに検証して繋がりができる取り組みを期待しています。



フクザワ カズナリ  
福澤 一成 (68)  
阿島南 無・2期

- ① なんちゃってメンマ作り ② 逆境は心の栄養 All is one, one is all
  - ③ 公民館の皆さんが目指す「ここちよいつながり」はとても大切な思いとして、この村の活性化につながるものと思へます。
- 私も2期目の議員活動のテーマとして「つながり」と「持続性」としました。この4年間、新型コロナや災害級の豪雨に命懸けで立ち向かっていた介護の現場や災害ボランティア活動に取り組む中で強く感じたのは、人と人とのつながりの尊さ、そこから生まれる大きな力です。
- 今、少子高齢化・人口減少は多くの課題を引き起こしています。誰もが安心して暮らせる持続可能な村づくりはすべての住民の希望となると思へます。この「つながり」を土台に「安心」のその先に、「希望」に満ちた喬木村の未来があると思へます。皆様とともに歩み、つながり合ひながら、より良い地域社会を築いてまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



サクライ ノボル  
櫻井 登 (76)  
伊久間 無・3期

- ① 農業。遊休農地等をお借りして農業をやっている。白ネギ栽培に奮闘中。
  - ② 「農は国の基 (もと)」 「経世済民」 (政の原点)
  - ③ 戦後、荒廃した日本を立て直すために、「学校教育と異なる社会教育が必要だと中学校区に一つの公民館を設置し常駐の公民館長を置く」として日本全国に2万を超える公民館ができた。そんな始まりから80年近い歴史があるが、時代の変遷とともに人口減少や一極集中などの結果、全国至る所に影を落とし、地域コミュニティの崩壊、人間関係の希薄化が進んでしまった。
- 分館対抗の競技から個人の楽しむスポーツにシフトしてきた。多様性の現れともいえる。受け皿は「総合型地域スポーツクラブ」である。地域コミュニティの活性化にもつながる。そのためには、地域での人材育成が必要。これからの時代を担う「子どもや若者」を中心とした人材育成を行い、イベントや行事の担い手にも参画する人を増やす取り組みが求められる。



ゴトウ アキト  
後藤 章人 (72)  
阿島町 無・4期

- ① 尺八の練習 ② ① 初心忘るべからず ② The worst is yet to come.
  - ③ 「持続可能な地域づくりに」について考へてみました。
- ① 無理のない活動の内容と回数
  - ② 役割を分担し、負担がひとりに集中しないこと
  - ③ 世代を問わず、住民の「居場所」になる公民館となること
- 持続可能な地域づくりの活動は、そのまま公民館活動に重なることが多いと思へます。人口減少、人の暮らしの多様化等で、皆で力を合わせて何らかの行動を起こすことは昔に比べ難しいのかも知れませんが、難しいからこそ大切なことなのです。



# 持続可能な地域づくりについて新議員に聞きました



シモダイラ ミツグ  
下平 貢 (59)  
小川両平 無・3期

① 神社の歴史や古代史の文献から地域の成り立ちを探ること ② 自利利他

③ 今、喬木村は、加速する人口減少の中、様々な課題に直面しています。地域も行政も、そして産業界においても担い手の確保に頭を悩ましています。

一方で、高速交通網の開通や、信州大学を中心とした次世代エネルギーの開発拠点としての地域の位置づけが、喬木村にとって大きな時代の転換期として巡ってきています。

持続可能な地域作りに向けて、課題解決への様々な施策に取り組むことに加え、地域の枠組みを超えた新たな地域力のつながりのもと、互いに補完しあえる環境作り（農村 RMO：地域運営組織という概念）などに取り組むなど新たな地域施策が必要な時代と捉えています。



マツシマ リエ  
松島 理恵 (49)  
小川上平 無・1期

① フラメンコ、読書 ② 動機善なりや、私心なかりしか

③ 今、喬木村は様々な課題を抱えています。リニア開発のため急速な発展が予想される中、その一方で少子高齢化により、空き地や耕作放棄が目立ちます。村民の幸せとは何でしょうか？美しい自然、安全な食品、みんなが元気になる村を未来の子供たちに残すことではないでしょうか。

私は、1. 農家の収入安定のため、放棄農地を活用し、新たな収入源、葉草栽培を推進したいと思います。2. 災害時に備えて備蓄米を確保。3. 自給自足と防災を兼ねた暮らせる防災拠点、『エコビレッジ』をつくり、定期的なイベントで、地域の巻き込みを図る。YOUTUBE発信して、『喬木村に住みたい』と思わせる1ターンの誘致につなげる。以上の活動を目指していきたいと思います。



オガハラ ミチホ  
小川原 美智穂 (64)  
阿島北 無・2期

① 数独（毎日お風呂で一時間、数独でストレス解消） ② いつも 明るく 元気よく！

③ コロナ禍を経て、人と関わらないことの心地よさを知ってしまい、「人と関わらなくても暮らしていけるし、何も困らないじゃん。」が、地域コミュニティや様々な活動のネックになっている。

昨年分館の活動に力を入れるよう変革しているので、“村民のやってみたい”を応援し、その輪が村内に広がっていくことを望みます。

しかし、変革したことが伝わっておらず、それぞれの分館で温度差があるように思います。各分館で積極的に活動をして貰えるよう支援する必要があると考えます。

今までのように本館で決めたことを、分館が取り組むのではなく、まずは小集団である分館の“やってみよう”を応援するのが持続可能な地域づくりにつながるのではないのでしょうか。



フクザワ マリコ  
福澤 真理子 (72)  
富田 日本共産党・3期

① 花のある庭づくり（現実にはセンスのなさや草とのたたかいに負けている） ② 己の欲せざるところ、人に施す事なかれ

③ 「孤立死 年間2万1000人」の見出しの新聞記事が目にとまりました。「孤立」は高齢者に限らず全世代に、問題を抱える人がいると思います。キーワードは「つなぐ・つながる」。特に高齢者では社会との関りが少なくなりがちで、「地区のことができないから」と組合など抜けてしまう方も多いと聞きます。若い世代以上につながっていることが大事です。政府は地域住民が担い手として支える「つながりサポーター」の養成促進を柱とした重点計画を策定した、と記事にありました。「担い手」というと、人がいない、になります。「担い手」がやる、ではなく、隣近所で気にかけてあげ、地域の子どもを見守るなど、みんなで、自分ができるところで支え合える立場になれたらいいと思います。



ナカモリ タカシゲ  
中森 高茂 (66)  
阿島北 無・4期

① 企業の統合報告書を調べる事 ② 無知の知

③ コロナ感染症への不安から、公民館活動が縮小を余儀なくされてきました。その経験を教訓に、これからの時代の公民館活動に参加しやすい環境整備や、参加してみたい事業の探求を行い、提案することで持続可能な地域づくりに向けて取り組んで参ります。

本年度より北分館の館長となり、屋外行事が雨天中止の場合の代替行事を模索計画し、実施日が雨天のため、室内での椋鳩十先生の学習会を開くことができました。また、北分館予算書には、耕地住民提案型行事への補助ができるようにし、その事業への協力体制を整えました。各分館同士の連携も模索して参ります。

# 公民館スポーツ部

# 春のペタンク交流会

6/1(日)  
開催

### ● 結果 ●

#### Aブロック

優勝 北A  
準優勝 氏乗A

#### Bブロック

優勝 帰牛原B  
準優勝 北B

#### Cブロック

優勝 南  
準優勝 チーム社会教育委員

春のペタンク交流会が第一小学校グラウンドを会場に開催されました。ペタンクはフランス発祥の球技で、簡単に言うと「的当てゲーム」です。小さな目標球(ビュット)により近づけるように自分の金属ボールを投げるスポーツです。相手に比べ自分の投げたボールがビュットに近ければ近いほど得点になります。ルールもシンプルで子どもからお年寄りまで気軽に一緒に楽しむことができます。当日は15チームの参加があり、3ブロックに分かれ得点を競い合いました。ペタンクは相手のボールを弾いたり、ビュットの位置を変えたりすることで大きく得点が動くことがあり、簡単なのに戦略性が高く奥深いゲーム性があります。狙ってドンピシャな位置にボールが投げられると「よっしゃー!」「うまいなあ〜!」や予想外のコースに外れてもラッキーショットになると「ラッキー!」「神ってる!」の歓声が上がります。みんなでワイワイ楽しめました。

### ● 参加者の声 ●

他のチームの作戦など興味深く、また普段関わりのない人たちとの交流もできる良い機会となりました。



## 公民館 講演会

### 弁護士 菊地幸夫氏

### 「世の中うまい話はない!

### 知って防ごう消費者トラブル」



喬木村公民館では、テレビでお馴染みの菊地弁護士に、最近の事例を交えながらインターネット、電話、訪問などの消費者トラブルを未然に防ぐためのポイントについて講演いただきます。

日時 ● 令和7年10月12日(日)

13:30~15:00 (開場 13:00)

場所 ● 喬木村福祉センター多目的ホール

定員 ● 200名

申込 ● 喬木村公民館

8月文書配布で申込用紙付きのチラシを全戸配布します。

#### 【プロフィール】

1957年生まれ、東京都出身、弁護士、中央大学法学部卒

# 突撃！となりのたかぎの子

社会教育委員会主催

## 第3回地域探検ツアーへ行こう！

～新緑の伊久間原 散策・収穫体験～

地域探検ツアーは、社会教育委員会が主催する事業で、小中学生と村内のいろいろな地区を訪れ、そこでの体験活動を通じて自然や文化、人との関わりを持ち、地域理解を深め将来の地域活動の担い手を育てることを目的としています。第3回を迎えた今回は、「伊久間」地区で開催しました。新緑の伊久間原をフィールドとし、美味しい果物や野菜、お花を堪能できるコースを設定しました。

また、企画段階から喬木中学校の生徒さんたちにも関わっていただきました。当日は雨模様となり、中学生の考えてくれたレクリエーションは福祉センターでの実施となりました。



お宝いくつ集められたかな？



お宝どこにあるのかな？

### 【レク「宝探しとクイズ」の内容】

- ・隠してある宝（カプセル）を制限時間内に多く集めよう！
- ・集めた宝が多いとクイズで有利になるよ！

伊久間原で農業している3名の園主さんに、伊久間原の農業の特徴や苦労している点、良い作物を育てるために大事なことなどをお話してもらいました。



横前 修さん  
(ズッキーニ畑)

良い食物を作るには

- ①水
- ②温度
- ③日光

いちばんは愛情!!!

- ポピー園 横前 豊さん
- サクランボ農園 林 弘富さん  
(信州フルーツ合衆国)

他に2名の園主にお話をさせていただきました



雨が上がったので伊久間原へ・・・

村木「イチョウ」が植樹された「桜の丘公園」で

### 【中学生が「一番印象に残ったこと】

- ・準備が大変だった
- ・小学生たちが、真剣に、おはなしを聞いたり、探検のときに楽しそうにしていたこと
- ・小学生と移動中に話す中で仲を深めていけたこと
- ・自分たちの企画をみんなが楽しそうにやってくれたのが一番嬉しかった

快く受け入れていただいた伊久間区の方々 企画から当日まで頑張ってくれた中学生のみなさん大変ありがとうございました。

# 帰牛原情報紙SKC〔好きな帰牛原をすてきな帰牛原に〕ご紹介



2020年～現在34号

帰牛原の夏!!

帰牛原SKCご紹介

帰牛原にあたらしいおともたち

5番組 桐生璃汰朗くん

好きな帰牛原をすてきな帰牛原に

子供～お年寄り～行事等々いろいろ

この中から一例をご紹介

誕生ご紹介

やさしいママたち

疲れ知らずの青年たち

我ら帰牛原人

頼もしい!

敬老会

祝金婚原

五十四年が過ぎました

金婚ご紹介

皆さん宜しくお願ひします

入居者ご紹介

元気ファミリー

消防活動

☆☆☆祝ご入学☆☆☆

新一年生紹介

帰牛原野球少年・発見!

野球やろうぜ!

帰牛原っ子

ご長寿紹介

towards a bright future

旅立ち!

お祭り

桜草

8番組の軒先に見事に咲いていました

帰牛原

4番組 大平小豆

ペット紹介

## 公民館自主企画講座!

こんなこともできます

公民館自主企画講座では、暮らしの中で感じる「こんなことを学びたい!」「この人の話を是非聞いてみたい!」「あんなことができるようになったら・・・」といった思いをきっかけに周りを巻き込みながら地域の中で主体的に活動をしようとする人を支援しています。

### 加々須パソコン教室

実施日 2/21～6/4

きっかけ 区の会議を配られる資料を自力で作成できるようになりたい。

内容 講師のサポートを受けながら、ワード・エクセルの基本的な操作を学びました。

感想 仕事で使えるようになった。Excelで表計算、関数が使えるようになった。楽しかった。

### Coffee淹れ方講座

実施日 4/26

きっかけ 自宅で美味しいコーヒーを淹れるための基本知識と技術を知り、自分好みのコーヒーを見つける楽しさを学び、生活を豊かにしたい。

内容 講師の方から豆の種類、焙煎、道具の説明を受け、一杯を淹れる

感想 珈琲の淹れ方で味が全然違う

今年度、早速2つの事業が実施されました。「こんなことを考えているのだけど・・・」という相談でも大歓迎です。公民館にぜひお寄せください。

### たかぎ短歌会 水無月歌会 詠草

写真入りのドライフラワー贈らるる我ら二人の傘寿祝い  
 糸くり草咲けば機織る妣浮かぶトントントンと箴の音聞こゆ  
 カツパ着て孫は苗箱運ぶ役息子は田植えする雨足繁し  
 母の日に子等の心根伝わりぬ 古い先思う吾の励みに  
 お隣ゆ旬の山菜振るまわる料理上手で忠実な女なり  
 常日頃ぶ愛想なる三男坊母の日違えずカステラ届く  
 取り寄せて植えしパンジイとりどりに咲き競う朝深呼吸する  
 幕が開き高三の孫の吹奏楽 会場いっぱいテーマ曲ながる  
 目が冴えて眠れぬ夜のつれづれにスイッチ入れるラジオ深夜  
 神宿る米一粒の尊さを母の教訓と塩結び食む  
 穫れたての新米の味忘れない 見早や作る事なき我が家の米を  
 水張田に影を映して大井川機関車トーマスよちよち進む

和久 美子  
小椋 りよ  
木下 寿子  
和田 京子  
内山 貴子  
内山 睦枝  
内山 和子  
田中 妙子  
市瀬 准子  
塩澤真由美  
元島 康子  
福澤 亀人

### 喬木村俳句会 水無月句会 詠草

梅雨空や胃カメラ検査の部屋に入る  
 薄暑光山の緑の薺めきぬ  
 四羽出て一羽巢のなか燕の子  
 螢舞ふ思ひ出辿る眠れぬ夜  
 深緑や母に寄り添ふ風の歌  
 早苗田を我が子と思ひ畔に立つ  
 薫風や古代を辿る光前寺  
 ようこそとおとぎの国の薔薇アーチ  
 麦秋や勤労日誌セピア色  
 姫女苑野の草となり空仰ぐ  
 海薔薇や米寿祝ひのイルカショー  
 銀河濃し豪華客船夢の園  
 五月晴抱きし曾孫の笑顔かな  
 紫陽花の滴る雨や真珠光  
 南天の花一握の米のごと  
 塩むすび食ふ幸せや青田風  
 春送り夫も送りにて空仰ぐ  
 五月雨やすべてを流し晴れ渡る  
 リニア来る春きぎす田に尖る杭  
 夫老いて寡黙になりぬ釣忍

木下 瑞恵  
矢澤 恵美子  
松島 みのり  
宮島 高枝  
西元 くにこ  
村山 たか子  
原 美恵子  
松葉 孝子  
市橋 ヨリ  
吉川 てる子

## 喬木まつりステージ発表出演者の募集

9月20日に開催される喬木まつりのステージ発表の出演者募集をします。

- ・ 申込期限 **8月8日(金)**
- ・ 申込方法 1. 公民館にお問い合わせいただければ、「出演申込書」を送付します  
2. 右記に記載の二次元コードからも申し込み可能です

※出演時間に限りがあるため、応募者多数の場合は喬木村民または出身者の多い団体を優先とします。



WEB申し込みフォーム

# お知らせ

## 第1回公民館平和学習会

日時：令和7年8月2日(土)  
 14:00～15:00(開場13:30)  
 場所：福祉センター2階第3会議室  
 内容：基町高校「原爆の絵」朗読会  
 入場：無料、申込不要

## 椋文学夏期講座

日時：令和7年8月17日(日) 14:00～  
 場所：椋鳩十記念館・記念図書館2階研修室  
 講師：菅沼 利光 先生  
 演題：「椋鳩十 若き日の読書・その文学への影響」  
 入場：無料、申込不要

## 武田信玄狼煙リレー

日時：令和7年8月30日(土) 9:20 集合  
 場所：・富田城山  
 ・加々須茶臼山

お問合せ 喬木村公民館 0265-33-2002

# あのとき、このとき

公民館長



「あんばん」は、NHKの連続テレビ小説ですが、六月は戦争に関わる物語となりました。主人公の嵩が軍隊に召集され、厳しい教練を受けます。戦地では餓えとの闘いも…。その中でなんとか戦いや暴力に抗う気持ちを押しさえつつも生きていく姿に気持ちが悪くなります。

「殺すこと死ぬことが正義」という考えがまかり通っていた時代。生きることがどんなに尊く、愛し合うことがどんなに美しいか、野生の動物をかりて若い人々に語りかけたかと思つた(南日本新聞88年9月28日) これは椋鳩十が戦時下に動物物語を次々と発表した理由を戦後になつて語つたもの。「あんばん」と重なるところがあると思ひながら見えています。やなせたかしさんも、戦争を体験し、「アンパンマン」を描きます。椋とやなせの心の底に流れるものは同じなのではないでしょうか。

椋の作品「マヤの一生」。(戦時中、犬のマヤを飼うのは贅沢だからと広場に連れて行かれ脳天に太い棒の一撃を受け、その後死んでしまう) このお話に託した椋の思いは、「権力というものは、恐るべき怪物です」と記しています。「金色の足跡」では、「敵を殺す国のために死ぬことが讃えられた時代、動物を借りて生きる尊さを語りかけたいと思つた」と後に明かしています。「大造じいさんとガン」にも通じます。

公民館では8月2日に平和に関する企画(高校生と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」展示と語り)を行います。

## 今回の表紙

### 題字

真浄寺書道会 原 愛夢さん  
 (喬木中学校3年)  
 小学1年から9年間通ってきました。入った最初は中々うまく書けなかったのですが練習を重ねると少しずつ上達してきました。これからも頑張りたいです。



### 写真

木下 穂南さん  
 シャボン玉の中の太陽とロータリーのイチヨウの木。奥に映る母校の体育館。そして子どもたちの自然な笑顔。写真の中の全てが美しく、ずっと守ってきたい宝物です。



## 編集後記

田んぼには水が蓄えられ、稲の緑が風に揺れる。休日昼間には圃場での草払い機の音、夜には虫や蛙の音が静寂を打ち破る。今年も変わらぬ日常の一ページだ。

我が家も、いくばくかの土地で稲作を続けている。先祖が繋いできた生活だ。当たり前の風景、当たり前の生活のなんと有難いことか。

世間では、令和の米騒動。生産する農業従事者の日々の苦労はそつちのけで、値段の高さを報道が煽るばかり。誰かに任している以上、消費者の応分の負担は必要である。食料品は、何でも買えば済むものと割り切り、便利な生活を追い求めてきたツケが回ってきているのだ。

あらゆる面で、自然への回帰を考える、良い機会なのかもしれない。

## ご意見・ご感想お待ちしております

館報を読んで思ったこと、感想をお寄せください。寄稿も大歓迎です！  
 喬木村の公民館報をみんなで作っていきましょう！  
 ☎ 0265-33-2002 mail: syakai@vill.takagi.lg.jp

■ 5月16日発行の公民館報662号におきまして、掲載内容に一部誤りがございました。(5ページ 書道展入賞者報告会)正しくは池田あさ美さんです。上記の誤りがございましたこと、深くお詫びし訂正させていただきます。